

《 諫 干 だ よ り 》

.....◆◆◆2007/5/1◆◆◆

◆◆◆目 次

- ◆諫早湾干拓事業にかかる最近の動き
- ◆トピックス
 - ◇諫早湾干拓地現地のマスコミ公開について
 - ◇営農実証試験現地検討会の開催について
 - ◇(財)長崎県農業振興公社理事会の開催について
- ◆総合農試干拓科だより[干拓産タマネギの貯蔵を考える(簡易貯蔵ハウス)]
- ◆九州農政局通信[農地・水・環境保全対策(先進的営農支援の概要)]
- ◆渡辺敏則長崎県農林部長の着任挨拶
- ◆その他(意見、提案の募集)
- 編集後記

◆◆◆諫早湾干拓事業にかかる最近の動き.....

- 平成19年4月11日(水)
□諫早湾干拓地現地がマスコミに公開された。
- 平成19年4月18日(水)
□営農実証試験現地検討会が開催された。
- 平成19年4月20日(金)
□(財)長崎県農業振興公社理事会が開催された。

◆◆◆トピックス

◆◆◆諫早湾干拓地現地のマスコミ公開について.....

4月11日、県は県政記者クラブ等を対象にした諫早湾干拓地の現地視察を開催いたしました。

潮受堤防、中央干拓では、排水機場、前面堤防、管理栽培、試験栽培について視察を行いました。

その中で、土地配分のスケジュールや環境保全型農業に対する質問等がありました。

当日夕方のテレビ、翌日の新聞各紙に当日の様子が放映、掲載されましたのをご覧頂き、干拓事業の現況を多くの方に知って頂くよい機会となりました。



◆◇◇営農実証試験現地検討会の開催について

4月18日に営農実証試験の現地検討会が開催されました。当日はあいにくの天候で、予定していたドリフト低減ノズル利用によるブームスプレーヤの実演や、ほ場での検討会は中止し、室内でこれまでの試験の実施状況等について意見交換を行いました。

本年の試験では、干拓地で実施予定の環境保全型農業を意識して、有機質主体の肥料を使用した試験や、有機栽培での試験も実施されています。その中で、有機成分50%以上の肥料を使用したたまねぎ栽培では、通常の肥料に比較してやや生育が遅いなどの結果が報告され、今後の課題として提起されました。しかしその試験においても、目標収量並の収量が確保されています。

また、干拓地は冬季の風が強いのでその対策が必須であり、干拓地の特徴に応じた作型設定や工夫が必要である等の意見が出されました。これらの貴重なご意見は、今後の営農試験の中で課題解決に取り組んでいきたいと考えています。

作作品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
ブロッコリー① (ピクセル)	定植 9月6日、7日 (半自動定植機利用) 施肥 元肥 エコスマイル 100kg 追肥 BB239号 40kg N換算20kg (元肥は畦成形同時施肥) 中耕土寄せ 9月15日、9月26日	・施肥量は県基準の約70%だが、生育は順調。 ・収穫は11月中旬～12月中旬。 (台風の影響により、収穫期間が長くなった) ・収量は約1,100kg。 ・秀品率は97%に達し、品質が非常に良かった。 ・肥料効きが良いため、生育も順調だった。 ・定植、土寄せ、防除等の機械化体系も併せて検討。
ブロッコリー②	定植 2月21日 (半自動移植機利用) 施肥 元肥 エコスマイル 100kg 追肥 BB239号 40kg (元肥は畦成形同時施肥)	・12月に収穫を終えたほ場の後作として作付。 ・機械化一貫体系を目指しており、2月21日に畦成形同時施肥を行った後、半自動移植機で定植。今後も三連カルチによる土寄せ、ドラフト低減ノズルを装着してブームスプレーヤ等を利用予定。
秋ばれいしょ① (ニシユタカ)	播種 9月15日 施肥 硫安 80kg(100%元肥) N換算16.8kg 収量調査 12月16日 4,951kg	・初期成育はやや遅れたものの後半は順調に生育。 ・12/16時点では、霜によりほとんど枯死した状況。 ・2L以上が56%を占め、161g/個と大いも傾向。 ・そうか病は発生していないが、肌荒れが見られた。 ・収穫物に土が付着するため、何らかの対策必要。 ・ほ場の一部は、11月中旬に収穫し、たまねぎを定植。 (11月中旬の収量は約2t)

作付品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
秋ばれいしょ② (ニシユタカ)	播種 9月19日～20日 施肥 元肥 硫安40kg 追肥 硫安20kg(培土時) N換算12.6kg 収量調査 12月16日 4,165kg	<ul style="list-style-type: none"> ・干ばつ年だったが、生育は順調。(灌水を1回実施) ・ハスモンヨトウの被害を心配したが、病害虫は発生せず無農薬で栽培できた。 ・既耕地が平均約2tの収量であり、結果には非常に満足している。 ・営農実証試験に参加したのは4作目になるが、ばれいしょの作付ほ場は、毎回変更となったためそうか病等の土壤病害が発生していない。 (※ばれいしょ栽培では輪作が必要) ・干拓地の試験栽培で生産したばれいしょを種子として既耕地で利用した場合、高い評価を受けた。
キャベツ (YR50, 緑春)	定植 9月7日(10月2日) 施肥 元肥 硫安 80kg 追肥 硫安 40kg N換算25.2kg 収量調査 11月30日 5,150kg 12月26日 5,848kg	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べて施肥量を減らしているが、生育は順調。 ・台風及びコオロギの被害、雑草多発でやや減収。 ・概ね生育は順調だったものの、灌水管理や雑草対策に苦慮。 ・収穫物の品質はまずまずだったが、市場全体が安値で低迷しているため、販売物の適正な評価は得られなかった。
レタス (ツララ)	定植 11月16日～18日 施肥 元肥 有機入り高度化成 160kg N換算16kg 収量調査 3月12日 4,932kg	<ul style="list-style-type: none"> ・生育はそのものは順調だが、地温が上がりにくいいためか既耕地に比べ生育がややおそい。 ・冬季に風が強く気温が下がりやすいので、2月出荷はタフベルの直がけでは難しいようだ。 ・防風対策に留意する必要がある。
春ばれいしょ (ニシユタカ)	定植 3月7日 施肥 元肥 なたね油かす 156kg	<ul style="list-style-type: none"> ・有機栽培による試験を実施中。

作付品目 (品種)	耕種概要 (数値は全て10a当たり)	主な意見・感想等
たまねぎ① (ヒロマル、 レクスター)	(レクスターの耕種概要) 定植 11月9日 施肥 元肥 たまねぎ名人 180kg 追肥 たまねぎ名人 20kg N換算31kg (※他に有機主体の区を設定) 収量調査 4月9日 ヒロマル 5,734kg レクスター 6,993kg	・ヒロマルは特裁を意識して有機質50%以上の肥料で栽培したが、初期段階から最後まで生育がやや劣った。(今後の課題として残った) ・機械収穫を行う際、草が絡まって作業効率が落ちるので、除草剤を1回は使用したい。 ・概して雲仙市内の既耕地よりも球じまりがよく、レクスターは秀品率も高かった。
たまねぎ② (Y100、さくら 七宝早生7号)	(Y100の耕種概要) 定植 12月7日 施肥 元肥 硫安86kg N換算18kg (他に肥料の銘柄、施肥量を変えて複数区設定)	・南北に畦を立てて栽培したところ、去年の試験に比較して生育が均一である。
たまねぎ③ (さつき)	定植 1月11日～12日 施肥 元肥 なたね油かす 156kg	・有機栽培による試験を実施中。 ・これまでのところ、既耕地とあまり変わらない生育。
たまねぎ④ (もみじ)	定植 1月中旬 施肥 元肥 硫安86kg N換算18kg	

◆◇◇(財)長崎県農業振興公社理事会の開催について

(財)長崎県農業振興公社は、4月20日、長崎市において第1回理事会を開催しました。任期満了に伴う役員改選では、理事長に県副知事の藤井健氏、副理事長に県農林部長の渡辺敏則氏を選出しました。

このほか、干拓地の一括配分を受けて貸付事業を実施するための議案や、公社の財源確保・体制整備に必要な支援措置に関する県との覚書の締結などの議案を議決しました。

また、公社は、干拓地での営農開始に向け、県と一層緊密な連携をとりながら、干拓農地の貸付事業を推進するため、兼務職員を増やすなど事務局体制を強化しました。

営農試験Now

—干拓産タマネギの貯蔵を考える(簡易貯蔵ハウス)—

総合農林試験場干拓科 川原洋子・小林雅昭

◆ これまでもタマネギに関する情報は、18年1月号で「内容成分と貯蔵性」について、5月号で「中球生産について」それぞれ紹介しています。

今回は、全農ながさき建材センターの協力を得て設計・施工した簡易貯蔵ハウスとその貯

蔵性について紹介します。

この情報は、干拓地に限定したものではなく、むしろ県下全体のタマネギ生産者の皆さんにも適用できる情報ではないかと思えます。

簡易貯蔵ハウスとは(構造と貯蔵量)

吊り玉, コンテナ貯蔵用として間口 5.0m, 奥行 5.0m, 棟高 3.5mのパイプハウスを建設しました。(写真-1、2)

風性を向上させるため、1m間隔に2重アーチ造とし、ハウス及び吊り棚の沈下を抑制するた40×40cmの鉄板プレートを基礎にしました。吊棚は48mmパイプを棧として7段吊りとしました。井には、白色フィルム(スカイコート白白 厚さ15mm)を被覆し、遮光、昇温抑制をはかっています。

このハウスで吊り玉貯蔵する場合、L級5球を1として、吊り間隔30cm、竿間隔30cmで吊ると約100kg、更に吊り間隔を25cm、竿間隔25cmにすると、最大で6,500kgが貯蔵できます。

の仕様での建設費(部材費)は概ね36万円前後になります。

白色フィルムを被覆したことでハウス内の温度、夏の高温期でも外気温より0.5~5.5℃低くなります。(図-1)また、2重アーチ構造としたことで成18年9月の台風13号では、瞬間最大風速 51m/sを記録しましたが、フィルムの破損や骨材歪み等の構造上の被害はありませんでした。



写真-1 簡易貯蔵ハウス(干拓科ほ場)



写真-2 ハウス内の貯蔵状況

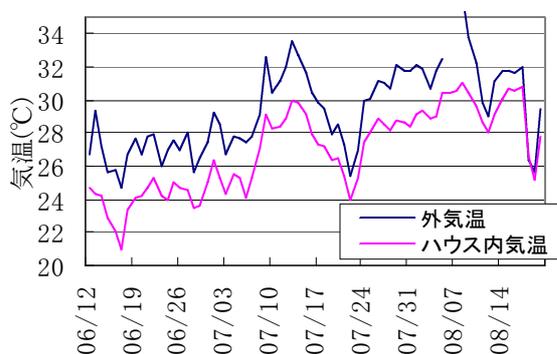


図-1 外気温とハウス内気温の比較



写真-3 木造の吊り球貯蔵施設

((独)農畜産業振興機構 四季の野菜より引用掲載)

◆貯蔵性

貯蔵性を高めるには、貯蔵中の腐敗を抑えること、終盤の萌芽を抑えることの2点があります。

腐敗球の発生率は、平成17年度は、5月26日収穫後、78日目(8/12)で腐敗率2%、5ヶ月後の11/15で20%でした。平成18年度は、貯蔵開始から70日目(8/21)で腐敗率4%、9月の台風で健全球も落下し追跡調査が困難となりましたが、残ったものを追跡調査した趨性値では11/13で36%の腐敗率となりました。(図-2)いずれの年も11月時点での萌芽はなく、より腐敗率を低下させることで長期貯蔵は十分可能であると判断されます。

一般に貯蔵中の腐敗率は、首が太く、大球で球しまりの悪いもの、水溶性窒素やリン酸分が高いもので上昇するとされており、逆に糖分の高いものは腐敗率が低下すると言われています。

たしかに、18年度の調査では、2L級のタマネギが腐敗率は高く、M級で低くなっています。(図-3)17年度と比較して腐敗率が高かったのも、18年が4月～7月まで雨続きで球の水分が多かったことや風乾が十分でなかったことなどによると考えられます。

◆規模拡大の一方策として

タマネギ経営において、早生品種と晩生品種をうまく組み合わせることで植え付けや収穫時期の労力分散が可能になります。また、貯蔵を行うことで出荷も4月から11月まで継続して行えるため、収入が長期にわたり得られることや市場単価の高低も平均化されるなど経営的なメリットが期待できると思います。

これまで、早生品種の青切り出荷のみを行っていた方など、この簡易な貯蔵ハウスを利用した晩生タマネギの生産を加え規模拡大を図られてはいかがでしょうか。

ちなみにコンテナで貯蔵する場合は、内部の棚資材が必要なく資材費は1/3程度になります。貯蔵量も最大16t程度が可能ですが、腐敗球の抽出ができないことや通風性に問題があります。

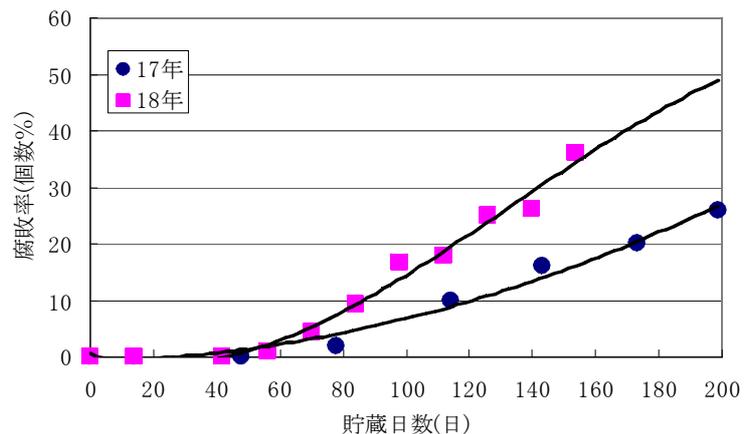


図-2 貯蔵期間による腐敗率の推移
(干拓科簡易貯蔵ハウスによる)

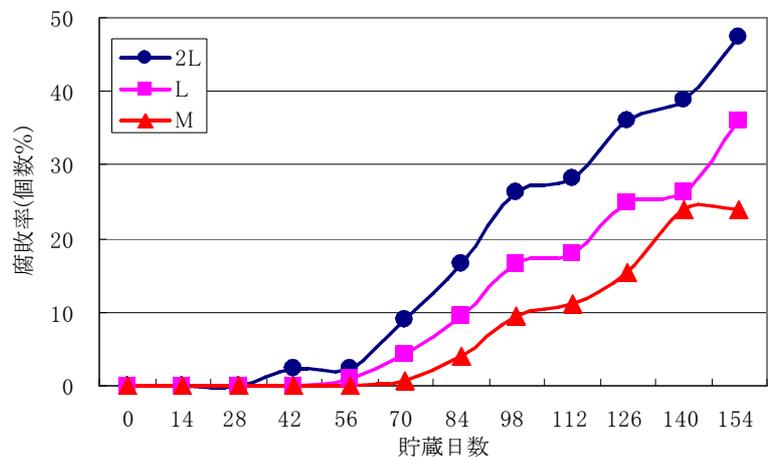


図-3 球の大きさと腐敗率(18年度調査)
(98日目以降は趨性値を表示)

◆干拓地でのタマネギ生産と貯蔵

さて、干拓地でのタマネギ生産においては、直播栽培や早生品種、晩生品種を組み合わせることが大規模経営を実現する上において重要なことです。



その中で、経営面積、生産量が多いことから貯蔵をどうするかというのは大きな問題です。

貯蔵施設も大規模のものが必要になります。また、今回のような吊り球貯蔵では吊る労力も多大なものになるため、やはりコンテナ貯蔵や冷蔵貯蔵が中心になると思いますが、その負担を出荷先(契約先)で行うのか産地側で行うのかは、契約を取り交わす上での大きな交渉課題の一つになると思います。

今回紹介した簡易な貯蔵ハウスは、即干拓営農で活用できるという情報ではありませんが、干拓地で生産されたタマネギが十分「貯蔵性も期待できる」ということは言えると思います。

◆◇◇九州農政局通信〔農地・水・環境保全対策(先進的営農支援の概要)〕……………

今回は、前回に引き続き「営農活動に対する支援」の概要について紹介していきます。

【環境にやさしい農業への支援】

平成19年度からは、地域ぐるみでの資源をまもる活動(共同活動)に対する支援とともに、化学肥料や化学合成農薬の大幅低減などの環境にやさしい先進的な営農活動に対する支援も新たに導入されます。

この支援は、農業者の皆さんで農業生産による環境負荷を減らす取組を行う集落等を対象とするものです。支援を受けるためには、次のステップが必要となります。

【ステップ2, 3: 化学肥料や化学合成農薬の大幅低減に挑戦しよう】

ステップ1(諫干だよりVol27)で対象地区を設定し、区域の農業者で合意が取れたら、化学肥料や化学合成農薬の使用を大幅に減らす取組にチャレンジしてみましょう。一定のまとまりをもった取組になると支援が受けられます。

次の①～③を全て満たす取組が、支援の対象となります。

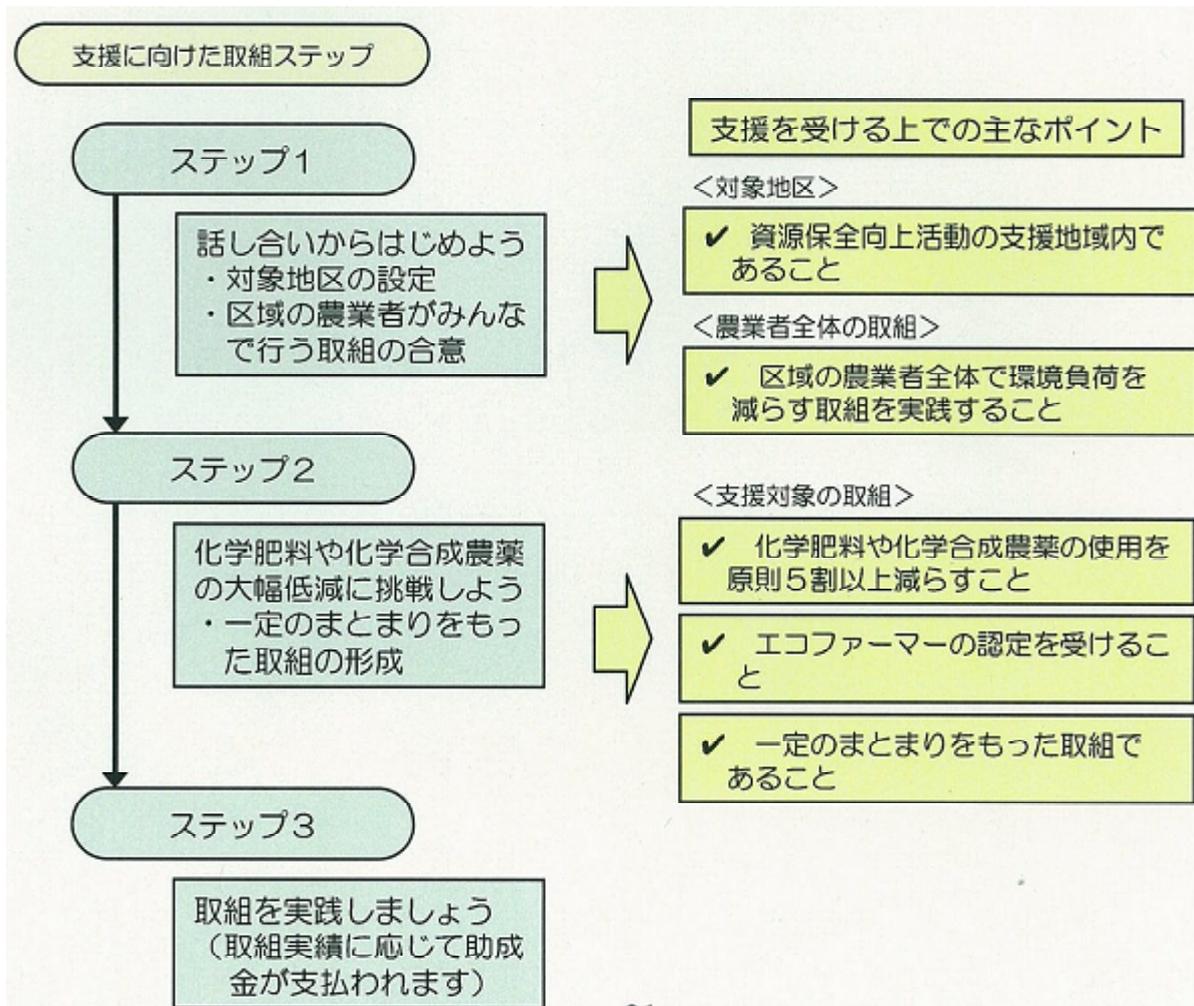
- ①化学肥料及び化学合成農薬の使用を地域の慣行から原則5割以上減らす先進的な取組であること。
- ②エコファーマーの認定を受けること。
- ③一定のまとまりを持った取組であること。

なお、「一定のまとまりを持った取組」とは、次のア、イのいずれかを満たす取組であることが必要です。

ア作物ごとにみて、集落等の対象区域の生産者のうちおおむね5割以上が取組んでいること。

イ集落等の対象区域の作物全体でみて、作付面積の2割以上かつ生産者の3割以上が取組んでいること

助成金は、上の取組面積の応じて活動組織に交付されます。なお、助成金は活動組織を通じて取組農家に配分することもできます。



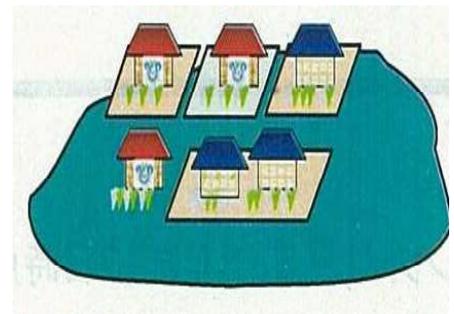
アイガモ農法



エコファーマーの認定



一定のまとまりをもった取組



◆◇◇着任挨拶 長崎県農林部長 渡辺敏則

このたび、長崎県農林部長を拝命した渡辺敏則です。諫早湾干拓事業の推進にあたりまして、多大なご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

厳しい農業情勢から全国的に農業産出額が減少傾向にある中、本県は、離島・半島地域が大部分を占め、平坦地が少ないという厳しい条件の下で、ここ3年ほど増加しております。

.....
◆◇◇その他(意見、提案の募集).....

～皆様のご意見をお寄せ下さい～

定期的に、諫早湾干拓室からのお便りを差し上げているところですが、お知らせの内容その他につきましてのご意見やご要望等ございましたら、諫早湾干拓室までお寄せ下さい。

なお、今後、お便りを差し上げる場合にEmailでの送付をご希望の方はメールアドレスをお知らせ下さい。

送付先 〒850-8570(住所記載不要) 長崎県農林部諫早湾干拓室
(TEL 095-895-2051 FAX 095-895-2595)

Email s07050@pref.nagasaki.lg.jp

お願い Emailでご意見やご要望等をお寄せいただく場合には、恐れ入りますがメールの件名を諫干だよりで設定し送信をお願いします。

.....
●編集後記

春の日差しが心地よい毎日となりました。いよいよ諫早湾干拓事業の仕上げの年となる平成19年度がスタートしました。先の県議会で県農業振興公社が干拓農地のリース事業を実施するのに必要な議案が可決され、3月末には営農希望者が公募するにあたっての基準も公表されました。公募開始は遅くとも8月1日となっておりますが、皆さまにおかれましては、ご準備のほどよろしく申し上げます。お気づきの点、気がかりの点がございましたら、どうぞご遠慮なくご連絡ください。